



平成 24 年度 JICA 環インド洋経済圏貿易投資促進研修

– JICA Facilitating Trade and Investment in Indian Ocean–Rim Economic Region –



(最終日：JICA 関西国際センターにて)

研修期間：平成 24 年 9 月 6 日～9 月 21 日

(3 週間)

研修場所：神戸/東京

研修内容：環インド洋経済圏のアフリカ・アジア諸国における貿易投資促進に関する講義/視察

参加研修員：11 名 (バングラデシュ 3、エチオピア 2、ケニア 2、セーシェル 1、タンザニア 1、ザンビア 2)

当財団では、独立行政法人国際協力機構(JICA)からの委託を受け、環インド洋経済圏貿易投資促進研修を実施しました。本研修は、環インド洋経済圏に属するアフリカ諸国とアジア諸国の経済関係が貿易・投資という観点から強化されることを目的として、過去 6 年にわたって実施され、今回で通算 7 回目となります。本年は、従来のアフリカ諸国に加え、新たにアジア・バングラディッシュからも研修員を招へいしました。自国で貿易振興及び投資促進を担当する政府職員 11 名は、神戸及び東京で 3 週間の研修に参加しました。

研修員は講義・視察を通じてアジア経済発展の歴史と現在、その背景にある産業政策を学び、政策当局の担当者として自国の経済発展のために何ができるかを考察しました。研修で学んだ内容を基に自国の具体的な貿易・投資促進策(アクションプラン)を作成し、最終日にその発表を行いました。日本での研修修了後はマレーシアでの 1 週間の研修に参加し、現地の講義視察を通じて、日本で学んだ知識を深めました。



～研修を振り返って～

本研修の対象となっている環インド洋経済圏とは、インド洋をとりまく国々が形成している経済圏であり、広くオセアニア、東南アジア、南アジア、中近東、アフリカまでをも含みます。近年、アジア諸国とアフリカ諸国の間での貿易・投資関係が強化されており、中でも中国とインドの急成長によるアジア市場のダイナミックな変化は今後の環インド洋経済圏諸国の更なる関係強化において非常に重要な要因であると考えられます。

研修では、アフリカ・アジアの経験・現状を学ぶため、東アフリカのスーパーマーケット産業を通じた農業発展、モザンビークにおけるアルミニウム精錬会社設立プロジェクト、バングラデシュにおける衣料産業の発展、ベトナムでの二輪車産業の発展など、各国の産業発展事例を紹介する多様な講義を設定しました。外国からの投資を呼び込んだ産業発展は、主要産業における雇用創出のみならず、地元中小企業、物流システムの整備など自国の関連産業を発展させ、大きな経済発展へつながることが期待できます。自国の経済、そして地場産業をも発展させる大きなチャンスですが、その一方で、自国の経済・産業状況をよく見極め、そして投資を呼び込むためのインフラなどの環境整備や、地元企業の産業能力向上が投資誘

致の要となります。研修員は、「魅力的な投資先の条件とは」「自国の産業発展のために政府が果たすべき役割とは」など、熱心な質問を講師たちに投げかけていました。



(中川産業(株)工場内視察の様子)

日本は「ものづくり大国」と称されていますが、その産業もまた全企業数の 99.7%を占める中小企業によって支えられており、こうした企業の絶え間ない努力が日本の現在のものづくりを形成したといっても過言ではありません。中小企業の製造現場における生産性向上のための取り組みである「カイゼン」、その概念と内容を学ぶために、研修では東大阪のコイルメーカー、中川産業株式会社を訪問しました。社長の熱意と共に社員が一丸となってカイゼン

に取り組む同社工場は、部品置き場の一つを例にとっても並び方に工夫が見られ、カイゼンキーワードでもある 5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)が実践される工場のフロアは綺麗に輝き、製造現場とは思えないほどです。研修員からも、「正確で高性能な日本の製品は、企業がカイゼンで絶え間ない努力を続ける結果である」と、コツコツとした努力を惜しまない日本の姿勢を称賛する声が上がりました。

また、アジア・アフリカという大陸の国情の違いはあっても、環インド洋経済圏から参加した研修員各国の抱える課題や関心は共通していたようで、講義内外を問わず活発に交流し合う様子が見られました。今回の研修を通じ、環インド洋を取り巻く国の研修員同士が交流し、自国の経済開発をアフリカ・アジア双方の観点から考えることは、研修員にとって貴重な機会となったと思います。

研修開始前は、3週間弱という短い日本滞在中で、どれほど日本・神戸への理解を深めてもらえるかという不安もありました。しかし、最終日の研修評価会においては、「日本人は礼儀正しく真面目で、環境を大事にしており素晴らしいと思う」「日本・神戸をそのまま自国へコピー&ペーストしたいくらいである」などといった日本・日本人、そして神戸に関するコメントが多数寄せられ、その心配は杞憂であったことに気づきました。研修員それぞれが日本で学び考えた事を自国の職務に活かし、各国が更なる発展を遂げることを期待しています。



(JICA 東京国際センターでの講義)

研修担当：後藤田 露子

委託元機関：独立行政法人国際協力機構(JICA)関西国際センター

研修指導者：神戸大学大学院国際協力研究科 高橋 基樹 教授

講義/視察先：神戸大学/東京大学/創価大学/九州大学

JICA 本部/アジア経済研究所/神戸市みなと総局/神戸港埠頭(株)

(株)上組/(有)サミット・ラボ/中川産業(株)

【順不同】



～研修員の声『神戸を訪れて（要約）』～
Participant's Voice 『VISIT TO KOBE』



国名：エチオピア 
名前：Mr. Giloya Kambiro Gacha
所属：外交省 ビジネス外交総局 事務推進高官

During my short stay in Kobe , I found many interesting things among which; the hospitality of the people, beauty and cleanness of the city particularly its beaches , and above all the grace the surrounding mountains provided it will always be remembered on a brief tripe taken down the memory . The artificial island In the Kobe port harbor area is unbelievable; the lengthy suspension bridges are astonishing. Kobe city's beauty is the symbol of man's effort to harness nature .Indeed Japan's people are known for their hard work and innovation ;Kobe city signify an emblem of your/Japan's/ original civilization in my observation.

短い神戸の滞在でしたが、暖かい人々、や美しい街並・海、そして神戸を取り巻く豊かな山々の光景は、自身の素晴らしい思い出となりました。神戸港や、島を繋ぐ大きな橋も印象に残っています。美しい神戸の街は、自然を大事にする人々の象徴です。日本人が努力家で革新的であることはよく知られていますが、神戸市は正にその象徴であると感じました。



国名：セーシェル 
名前：Ms. DESIR Lilianne Marie-Antoinette
所属：セーシェル投資委員会 投資促進担当官

My training and stay in Japan, more precisely in Kobe has been immensely enjoyable.
Words cannot really expressed the kind of experience I had in Japan...It was just amazing!!!! The training and learning environment in Kobe and Tokyo surpassed my expectation. I learnt a lot through the lectures / presentations and models/examples and exchanges on good practices from other participants.
The numerous sites to companies made it an even more learning experience. I was so impressed with sites visits at Kobe Port, and the containerisation and logistic facilities, the steel factory adopting the Kaizen concept. Learning the theories in class and then linking the practical aspect of the theory by visiting the factories made it an unforgettablely experience.
And the most honorable and memorable part of this training program is our visit to the Mayor of Kobe, of which we learnt quiet of few things of this thoughts and plans for the city.
The Japanese are very, very nice, respectable people and are always ready to help you.

Japan has a very reach culture and I have to say is also one of most beautiful, cleanest country I have visited. Technology-wise it one of most advance and another thing that has impressed me is their waste management system and how they attach so much importance in energy saving and environment.
Overall, I was exceptionally pleased I got the chance to visit and experience the life and culture in Japan and its people.

神戸での研修・滞在は非常に快適でした。生活・研修環境は私の想像を超えており、研修内容、また他の研修員との交流を通じ、多くを学びました。
神戸港を訪問し、コンテナ物流施設を訪れたことは特に印象に残っています。またカイゼンを実践する工場訪問は、講義を通じて学んだ知識を一層深める経験となりました。
また、光栄にも研修中に神戸市長を表敬訪問し、市長のお考えを聞いたことは忘れがたい思い出です。
日本はこれまで訪れた国の中でも極めて美しく清潔な国で、ごみの管理や節電対策などは特に進んでいると思いました。
日本を訪れ、日本の文化や素敵な人々を知ることができ、うれしく思います。